



2001 年 (平成 13 年)

3 月号 (No. 670)

社団法人 日本山岳会

The Japanese Alpine Club

定価 1 部 150 円

森林と人類

■文明は森林を破壊する

「山」編集人の村井さんから手紙をいただいた。一九九六年本誌六一八号に掲載した「環境と森林」につづき、「森林と人類」の標題で岩坪節を展開せよという内容である。専門でない方にも理解されるよう、かつ内容のレベルは落とさないことをモットーに努力したつもりである。東京の人から見ると私の文章は浪花節のようであるらしい。それでは書きましよう、私は浪速節が好きですから。それでアーしてこーなつてと。

巨大文明は森林を破壊する、と世の識者は言う。エジプト、メソポタ

岩坪 五郎

ミア、ギリシャ、ローマみな然りである。これを私なりに解釈すると、人間は生きていくために食物と燃料が必要である。巨大文明つまり人が集まると、集中的に周辺の土壌からその生産物を、食物や燃料として、生産能力以上に取り去ることになり、土地が痩せ不毛になるのである。

不毛になるのに大きく分けて三つの経路がある。

一、日本や中国南部など降水に恵まれている森林地帯では、森林の成長量以上をくりかえし伐採することによって森林はしょぼくれ、土壌面が裸出してくる。そうなると雨季の土壌浸食で、ひどい場合は地滑りで肥

目次

森林と人類	1
山研ミニ水力発電、今年度の成果	4
山岳博物館散歩・11	5
海外の山	6
報告	
医療委・ガモフ博士の講演会	7
指導委・アイスクライミング講習会	7
海外連絡委・英国山岳会に賛同	7
インターネット小委・山岳会のホームページ、リニューアル	8
フィルムビデオ委・寄贈作品を紹介し	8
丹水会・表尾根山行と祝賀会	9
東西南北	
ミニヤコンカ登攀史	10
山岳事典二つ	10
リーダー研修会の思い出	11
短歌・辺境の山旅	12
新入会員・図書受入報告	12
ビデオテープ保管リスト	13
会務報告	17
INFORMATION	18
ルーム日誌	19

▶ 日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木 10~20時
水・金 13~20時
第2、第4土曜日 閉室
第1、第3、第5土曜日 10~18時

■森林の特性

日本、ドイツ、フランス、北欧諸国などは林業の先進国である。数百年にわたって木材生産を通じて人は森林と関わり合っている。木材は石油、石炭などの化石燃料とちがって再生可能資源である。伐採してもひどい短伐期での繰返しをやらなければ、伐採跡地に若葉が芽生え再生産が始まる。ある地域を獲の目切りにし、年間成長量以下を伐採していけば一巡してきたとき、同じような森林に成長しているはずである。獲の目の数が伐採のローテーションで、輪伐期という。

森林の成長は大気中の炭酸ガスの炭素の固定を意味する。だから、成熟安定した老齢林に炭素固定の機能はない。日本の森林の木材蓄積量は現在約三五億立方メートル、年間成長量は〇・九億立方メートルである(2)。これは炭素量にして約〇・二億トンで、日本の年間炭酸ガス炭素排出量三億トン(4)のほぼ七%を吸収固定している重要かつ貴重な機能である。工場などが排出する炭酸ガスを固定する効果的な技術はまだ開発されておらず、森林の成長はほとんど唯一の炭酸ガス吸収源である。

日本の森林の年間平均成長量は四・八立方メートル/haであるが、熱帯でのユーカリのような成長の早い木

の植林地では成長量は年間二五〇三立方メートル/haに達する。三〇立方メートル/haとして年間炭素六トン/haを吸収固定する。一kwhの電力をつくるために使われる石油から出る炭酸ガスの炭素量を一六〇グラムとすると(5)、一haの森林は年間六トン/(二四時間×三六五日)/一六〇グラムで、四・四kwhの発電から出る炭酸ガスの炭素を吸収する計算になる。

地球温暖化防止京都会議(一九九七年)でのクリーン開発メカニズム(CDM)により、先進国は途上国での造林作業で排出削減量の認証を得ることができる。この数値は電力会社や製鉄会社が熱帯林の造成に熱心に取り組むことに魅惑的なものなのだろうか。

熱帯での早成樹の造林にも問題がある。生物多様性の維持である。ひとたび絶滅してしまった生物種は再び戻らない。生物の多様性はすなわち生物環境の多様性である。森林は陸地の大面積を占めており、高さ数十メートルに及ぶから、そこには地球上最大、最多種の生物環境が広がっている。これを維持するには、多くの樹種から構成される天然林(自然林)がのぞましく、早く成長し、形質のよい樹種の単一斉林(同種同齢林)は好まれない。もちろん禿

げ山よりはよいけれども。農業においてもおいしくて高く売れる品種のお米の大面積栽培はこの点で問題であらう。

■わが国の現状

戦中、戦後の過伐採の後、日本の森林は著しく回復した。国・公有林、民有林でスギやヒノキの植栽が熱心に行われたこと、森林管理署や国土交通省によって禿げ山に等高線沿いに階段をつくり、マツやハンノキ類を植栽する砂防工事が成功したことによる。しかし、それを支えたのは、①石油、ガス、電気が普及し、森林生産物が燃料として使用されなくなった。②化学肥料の普及により、樹木の葉を農地に鋤き入れることがなくなった。③安

価で太い良質な外国材の輸入により、国産材は売れなくなり、伐採されなくなったという現実である。とくに③の外国材の輸入が大きい。日本の木材使用量は戦後の産業の発展、都市への人口の集中、核家族化などによって急増し、一九七三年に一・二億立方メートルに達した後横這い状態にあるが、現在その約八割が輸入材である(図1)。世界各地の木材伐採量は、図2に見られるように一九六七年を一〇〇とするとこの地域でも増加して

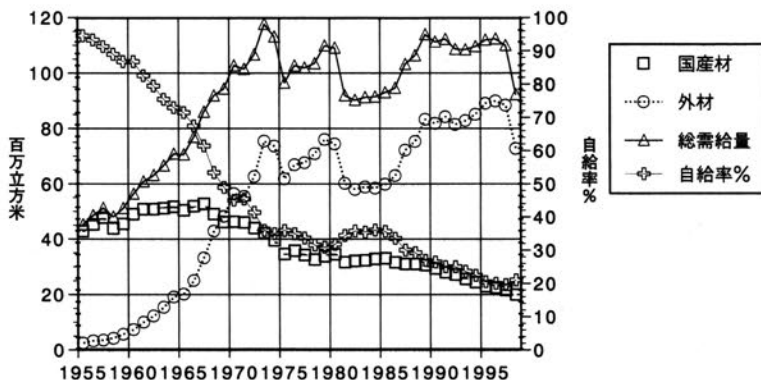


図1 用材需要量の変動 薪炭材、椎茸原木は含まれていない。(3)より作成

おり、熱帯では二倍近くなっているのに日本だけが減少をつづけ、一九八七年には六〇以下である。一九九七年には三九となっている(3)。日本の木材輸入量は、二位の米国を大きく抜いてトップで、世界の森林破壊の元凶と目されている。しかし、日本人一人あたりの木材使用量はアメリカより少なく、古紙回収、利用率は世界の優等生である。日本の森林の年成長量は〇・九億立方メートルで、

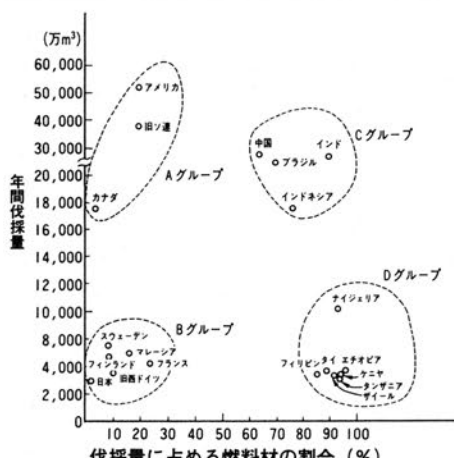


図3 1989年度における世界のおもな森林伐採国上位20カ国と伐採量に占める燃料材の割合 (岩井吉彌、1993) (2) より転載

(3)。原因は農地への転用と過放牧、森林火災、薪炭材の過剰伐採、それに伴う土壌浸食による草地化、売地化があげられる。現在、燃料材の過

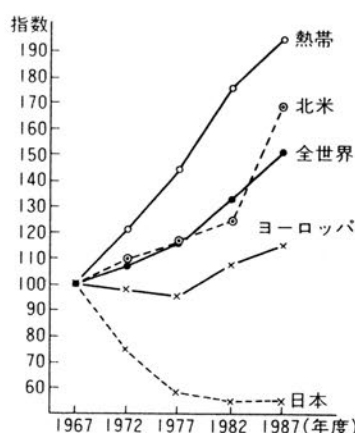


図2 世界各地域の木材伐採量の推移 (指数は1967年=100) (岩井吉彌、1993) (2) より転載

注・熱帯とはインドネシア、マレーシア、フィリピン、ブラジル、ナイジェリアの合計した。

木材輸入を減少または中止した場合に生じる国際の、経済的影響または摩擦について私はよく知らないが、日本としては輸入にたよるほうが経済的なようである。

自国産でやりくりできるのに、自国の樹木を伐らないで輸入に頼っているのが日本の特徴である。その理由は、日本は人件費が高い、日本の木材は生産に人手がかかっているなどで、高価である。そのうえ3K産業と目されていて働き手がない。自然保護運動が盛んで、伐採とくに大径

木の伐採はやりにくい。外材の輸入先は米国・カナダ材が四三%、南洋材が一六%、オーストラリア材が一〇%、北洋材が七%、ニュージーランド五%、チリ五%とつづく。フィリピンではラワンを伐採しすぎてなくなってしまう。インドネシアはその輸出を中止丸太のままの輸出を中止した。

剩伐採に伴う森林の喪失が大きい。図3の伐採量に占める燃料材の割合の大きいC、Dグループに属するのは、発展途上の諸国である。

■飽食の民

発展途上国での諸問題の最大の原因は急激な人口増である。人類の将来はこの問題にかかっている。生態学的にみると、先進国の住民は飽食の民である。栄養状態が悪くなると生物は繁殖成長をはじめ。私の経験では、環境条件が悪くなるとスギヤヒノキは花粉を付け、種実をつけはじめが、好適な場合は伸張成長、肥大成長にエネルギーをつかう。つまり、発展途上国の人口増加率が先進国に減少するためには、われわれと同じ飽食の民になつてもらう必要がある。そのための協力を先進国はすべきであつて、質素節約をすすめるべきではない。農業生産をあげ、森林を回復・維持する方法をわれわれはよく経験している。その際、もっとも重要なのはエネルギーの確保である。

■原子力発電の安全維持、開発・発展を!

エネルギーでもっとも切実なのは、炭酸ガス問題、大気汚染問題のために安くて安全な化石燃料が使えない

ことである。太陽、風力、地熱など代替燃料の開発が強調されている。しかし、それらはやがて八〇億に達するという全地球人類が飽食の民になるためのエネルギーを充足しうる可能性があるのであるか。全地球人類の生き残りのためには原子力発電の安全維持、開発・発展が必要だと私は思う。今、多感な若者たちの多くが自然保護に熱心で、即、原発反対である人が多い。原子力発電の安全維持、開発・発展のために人類の若い最精鋭が従事して欲しい。そして海外協力青年隊として、途上国の人たちに安全なエネルギーを供給して欲しい。

JACC会員としてできるもっとも手近な方法は、今、原子力安全委員長をしている松浦祥次郎会員を激励することであると思う。

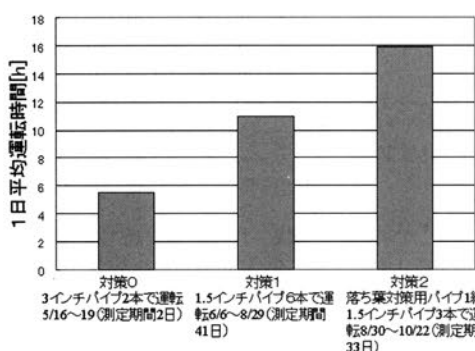
私の専門である森林の利用、保護から話がそれたが、そのためにも必要な主張である。編集人をお願いしたい。彼は今、たいへん忙しいようだがつぎは松浦会員の原稿を掲載していただきたい。

- (1) 小椋純一著「人と景観の歴史」一九九二、雄山閣出版
- (2) 森田学編「林産経済学」一九九四、文永堂出版
- (3) 平成十一年度「林業白書」日本林業協会
- (4) 平成十二年度「環境白書」(総説 環境庁編)
- (5) OECD Energy Balance (二九八)

山研ミニ水力発電 今年度の成果 常時運転可能に！

ミニ水力発電実行委員会 森 武昭

「環境に優しいミニ水力発電を山岳環境保全に役立てよう！」とのキャッチフレーズで平成十二年五月から稼働を始めた上高地山岳研究所のミニ水力発電の実用化研究に関しては、その目的と意義、許認可等の試運転までの経緯、完工式については、すでに会報六四七号、六五七号、六六二号で報告してきた。本格稼働一年目の今年度の目標は、安定した電力を得るためのキーポイントとなる善六沢から取水する（山研の裏手約五〇〇メートルのところ）際の砂と落



対策ごとの運転時間の実績

ち葉・木屑などのゴミ対策を施すことであった。以下にその検討結果を報告する。

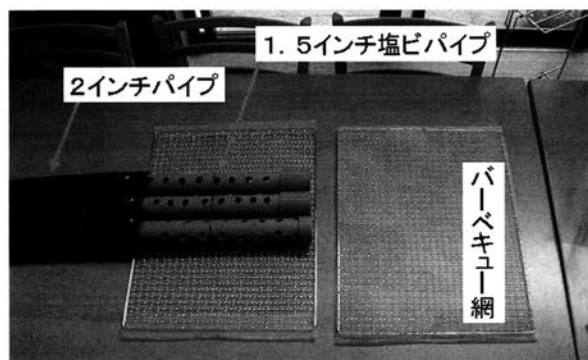
ミニ水力発電の場合、その取水場所によってゴミの量や内容が違ってくる。善六沢は、砂地である上に上流に落葉樹が多いため、これらの対策は筆者が今までに手掛けてきたケースに比べて難しく、何らかの有効な手法を編み出す必要があった。

そこで、当初（試運転から五月の完工式過ぎまで）は、十分な水量を確保することを最優先にして様子をみることにし、写真のような長さ約一メートルの三インチ（七五ミリ）の塩ビパイプ二本に直径約一〇ミリの穴を多数空けただけの極めてシンプルな取水装置（対策〇）で試してみた。その結果、予想をはるかに上回る多量の砂がサージタンクに貯まるとともに木屑などで取水口の穴が直ぐに詰まってしまうことが明らかに網を巻いたが、ほとんど効果がなかった。三インチパイプは、水を吸

い込む力が非常に強く水量を確保する上では優れているが、砂やゴミも多量に吸い込んでしまうという欠点を確認された。

この欠点を改善するために、六月の第一週末のウェストン祭で上高地入りしたのを機に、取水口からサージタンクまでの約三〇メートルに一・五インチパイプ三本を布設して様子を見たところ、砂やゴミがかなり軽減できることが確認できた。そこで、発電システムを維持していくために必要な水量を計算し、一・五インチパイプ六本を布設して（対策一）運転したところ、週二回程度管理人が取水口の掃除に行けばよいことが明らかとなった。しかし、これでは管理人の負担が大きく、また秋からの落ち葉シーズンには対応できないことは目に見えていた。

そこで、八月最終週に所用で上高地に入った際に、管理人といろいろな意見交換を行い、写真のような手法を検討することにした。即ち、多数の穴を空けて取水口となっている長さ約一メートルの一・五インチ塩ビパイプとサージタンクまでをつなぐ一・五インチポリパイプとを二インチパイプで被せてその中で接続しさらにこの上下をパーベキュー用の網で覆い、隙間は細い金網で包むようにした（対策二）。このようにする



砂とゴミ対策を施した取水口（対策2）



初期の取水口（対策0）

山岳博物館散歩・・・・・・11

東京都北区飛鳥山博物館



北区飛鳥山博物館は、城北の桜の名所・飛鳥山公園内にあります。隣接する渋沢資料館、紙の博物館と同時に平成10年3月に開館したまだ新しい博物館です。

東京都23区の一つである北区は、赤羽を中心とする岩淵町、王子を中心とする王子町、そして田端や板橋などを中心とする滝野川町が、戦後あわさってできた自治体です。

甲武信ヶ岳に水源をもつ荒川に面し、武蔵野台地と東京低地にまたがって立地している地勢を活かしながら、旧石器時代以

降の区内の事象を中心に、自然・考古・歴史・民俗など、14のテーマで展示されています。

山岳専門博物館というわけではありませんが、北区は日本山岳会名誉会員の冠松次郎さんが黒部峡谷を精力的に遡行されていた壮年期、そして戦後の晩年を送られた地であります。そこで、没後30年を記念して昨秋特別展を開催。生まれてから亡くなるまでの冠氏の人生をたどり、さまざまな資料でその業績をふりかえりました。今後も機会あることに面白い特別展を企画したいと考えています。

(主任主事 中野守久)

住所 〒114-0002

東京都北区王子1-1-3

TEL・03-3916-1133

FAX・03-3916-5900

開館時間 10:00~17:00

休館日 月曜、祝祭日の翌日 年末年始

観覧料 一般:300円 子供:100円

交通 JR京浜東北線王子駅南口より徒歩5分。営団地下鉄南北線西ヶ原駅・王子駅より徒歩7分。

*公園内のため駐車場はありません。

と、取水口は砂地から浮いているため砂はほとんど入らなくなる。また、落ち葉などのゴミは、上部の網に一部付着してしまうが、下部からは取水することができるため、管理人が週一回掃除に行けば十分機能するこ

とが明らかとなった。この二段階の対策による発電機の運転時間を調べたところ、図のように、対策ごとにかなりの割合で増加していることが定量的に示された。管理人が休暇または所用で留守して

ところで、平成十年十二月の理事会で承認されたミニ水力発電実行委員会(委員長・小倉副会長)は、設

格稼働した初年度に、上記のような成果が得られたのは、現場を預かる立場からいろいろなアイデアを出し、また実践的に試みてくれた管理人(木村太郎・弥生の二人)の全面的な協力に負うところ大であったことを記して謝意を表したい。

*

本格的な結果も得られている。以上のようにより、二段階の対策を施したことに、今年度の当初の目的はほぼ達成できた。来年度は、山小屋などで使用することを前提として、発電機の制御方式と発生した電力を環境保全に役立てるような負荷の使い方の二点について技術的な検討を行っていく予定である。

増になつていないし、飲料水用パイプも対策2の手法を取り入れたところ、混入する砂の量が大幅に減るといふありがたい結果も得られている。以上のように、二段階の対策を施したことに、今年度の当初の目的はほぼ達成できた。来年度は、山

いる時と雨(特に短時間に大雨が降ると濁ってしまう)で取水に心配のある時は運転を休止しているが、それ以外は夜間を含めてほぼ常時運転可能となっており、安定した発電量を確保できるようになった。昨年度

計・許認可手続き・設置工事・完工式・本格稼働を完了し、当初の目的を果たしたので、今年度末で解散することになった。そして、平成十三年度からは、山研運営委員会内にミニ水力発電運営委員会(委員長・小倉副会長)を設置して、実験研究を継続し、今後の課題に取り組みしていくことになった。また、本プロジェクトは、神奈川工科大学との共同研究として実施してきており、平成十三年度以降もさらに三年間継続する契約を締結したので、今後も技術面での支援を受けることになった。以上の方針は、平成十三年一月の理事会で承認された。

日帰りからキリマンジャロ、マッターホルンまで

全国ネットの山旅専門店！安全で快適な山旅を。中・高年からお一人様までサポートします。各コース経験豊富なツアーリーダー同行で安心。

おすすめポイント！手配OK！人気の山旅スタイル。気軽にお問合せください。

2000年秋からの

やませみクラススタート！大好評！初心者の方の山歩き講座。各地発着のプランをご用意しました。

2001年度カタログも

ご予約ください。

アミューストラベル株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-22-2 新宿サンエビルB1
☎03(5325)1256 FAX03(5325)1258
大 阪06(6456)3366 名古屋052(588)5617
福岡092(414)5566 広島082(502)2525

海外の山

新世紀幕開けの
ヒマラヤ

江本嘉伸



ヒマラヤの山々

二十一世紀幕開けの春とあって、ヒマラヤは話題にあふれている。

エヴェレストに関しては、話題づくりのために「初の」をねらう人たちが相変わらず多い。チリの四人の女性登山家が、「南米女性としての初登頂」をめざしてエヴェレストに向かう。三十四歳のクウェート人、ゼド・アル・ラファイは、「アラブ人として初登頂」を課題にしてのエヴェレスト行きた。

十一年前、父親とともに十七歳でエヴェレスト登頂者となったフランスのベルトラン・ロシュが今度はチベット側から、妻とともに頂上をめざす。ベルトランは、一九九〇年十月七日、父のジャン・ノエル・ロシュとともにネパール側からの公募登山隊に参加、それまでの最年少登頂記録（一九七三年のイタリヤ隊に参加したネパール少年、ジャン・タマンの十八歳を破って登頂し、帰路はサウスコルからパラグライダーでタンドム飛行してベースに戻った記録

を持つ。当時「初の父子同時登頂」と話題になったが、今度は別ルートからおしどり登頂を計画している。

ジョージ・リー・マロリーの同行者だったアンドルー・アーヴィンの搜索は、この春も続けられる。九九年五月に、マロリーを発見した時のリーダー、エリック・サイモンソンら当時のメンバーが中心だが、マロリーの遺体を発見したコンラッド・アンカー自身は加わっていない。

気になる情報としては、聖なる山として登山が禁止されているマチャプチャレ（魚の尾の峰の意、六六九六メートル）が、いよいよ解禁されるのではないかとささやかれている。この山は一九五七年に、イギリスのジミー・ロバーツ隊が頂上直下一五〇メートルまで登っている。

八千メートル峰全十四座に登っている七人の登山家のひとり、スペインのフアン・ト・オリアルザバルが、「十カ月間でエヴェレストを含む七大陸最高峰登頂」計画を試みようとする。

して、話題になっている。オリアルザバルは九三年十月、エヴェレストに登頂しているが、その時は酸素の助けを借りた。今回は無酸素で最高峰に登り直すという。

ここからは、「国際山岳年」の話。カラコルム・ヒマラヤを擁するパキスタンの観光開発協会（PTCD）は三月一日、来年二〇〇二年の「国際山岳年」を「山の一年」として祝うこと、そのために近隣諸国と連繋を取り、ことし一年を世界に向けてのプロモーションの年とすることを表明した。

国連が九八年十一月の総会で決議した「国際山岳年—International Year of Mountain」略称・IYM（詳しくは二〇〇〇年八月号のこのコラムで書いた）については、次第に動きが出てきている。当初各国を代表する山岳組織で結成されている国際山岳連盟（UIAA）は静観の構え、という姿勢だったが、昨年十月のフランスでの総会では積極姿勢に転じ、「国連が決めた山岳年の機会を活かして」さまざまなプロジェクトを実施する旨が報告された。

ネパールでは二〇〇三年五月に予定される「エヴェレスト初登頂五十年」をどう祝うか、が山岳関係者の関心のマトだったが、ここに来て前年二〇〇二年の「国際山岳年」も大いに盛り上げ、五十年になだれ

こもう、という空気になってきた。二〇〇二年十月に予定されるポカラの国際山岳博物館の開館は、その目玉だ。

日本でもエンジンがかかろうとしている。二月二十二日、東京・青山の国連大学で、日本山岳協会、日本勤労者山岳連盟、日本山岳会、HAT-J、日本ヒマラヤ協会の代表が参加して初のミーティングを開いたのだ。具体的に何をやるのか、はすべてこれからだが、小さくとも動きになってきたのは、よかった。国連が対象にしているのは「Mountain（山岳）」であり「Mountaineering（登山）」ではない、とする捉え方をしよう、と、とつきにくい「山を深くとらえられるのは、第一にその地域の住民であり、第二にそこを訪れる登山者たちだ」と考えれば、私たちが楽しみつつできることは多様にあるのではない。

最後に、この場を借りて日本山岳会青年部が発行し始めた季刊「きりぎりす」という手作りの冊子、——いつても九五ページの立派なものだが——を紹介したい。昨年十一月に創刊号が出たばかりだが、最新の「二号」を含め、若手会員たちの山への思いが率直に表明されていて、実におもしろい。こんなに多くの若者が山に登り、表現しようとしていることに心動かされた。

報告

REPORT
3月

医療委員会

ガモフ博士の講演会

日本山岳会医療委員会・ガモフ博士講演会「新世代の携帯型加圧バッグ(新ガモフバッグ)、そしてガモフベッド」が二〇〇一年一月十一日(木)十八時三十分より、アルカディア市ケ谷で行われた。大森副会長以下四十人近い参加者で盛況であった。ガモフ博士は、今では大きな高所登山やトレッキング隊では必須となっている携帯型加圧バッグの開発者である。ガモフバッグと称されるのはその故である。今回のガモフ氏の講演は、まず、二重バッグ構造にして二酸化炭素排泄を改善させた新しい原理による新世代のガモフバッグの説明。今まで問題となっていたポッピング回数を原理的には十分の程度に減らせるはずであるという。会場からは難しくてよくわからない

日本山岳会の各委員会
同好会の活動報告です。

という声も出た。実際のフィールドでの使用報告が待たれる。

二番目は、新たに開発した小型の低圧チャンバーについてであった。五〇〇〇メートル程度まで減圧できるこのシステムは自宅でも使用でき、この中で眠ることによりよい初期高度馴化が獲得できるのだという。登山家というよりは普通のアスリートが飛びつきそうな装置である。

通訳がやや不十分であったせいかガモフ氏の話は冗漫になるところもあったが、多数参加していた若い年代の人々は積極的にガモフ氏と直接会話を交わし、メールアドレスを交換して将来の情報交換を約束していた。講演会はこのいう場でなくてはいいけない。

ガモフ氏は、若い頃はなんとニューヨークでバレリーナとしてならしっており、母親はモスクワと謳われたブリマドンナ。父親はビッグバン

セオリーの主唱者として有名な天文学物理学者、ガモフ理論のガモフ博士である。ソビエトからアメリカに移ってきた絶世の美女+天才の頭脳の間に生まれた現在のイゴール・ガモフさん、若い頃は両親に反発し学校と勉学を放り出してモダンダンサーに逃亡したというわけだ、ある日目覚めて数学を勉強しはじめるまでは、この話のことは、講演が終わってお酒の席で盛り上がった。

講演の内容は翌々日の読売新聞スポーツ欄に囲み記事で取り上げられ、これを見たいいくつかの機関から問い合わせがあった。

ガモフ氏は講演会の翌日は大月の橋倉温泉へ、翌翌日は葦崎にある日本山岳会会員有志のダーチャへと遊び、日本的なバックカントリーを満喫していただいた。(増山 茂)

指導委員会

アイスクライミング講習会

指導委員会(集会・遭難対策委員会など共催)では、二月三〜五日、八ヶ岳・赤岳鉱泉定着で、恒例のアイスクライミング講習会を実施した。参加者は会員、学生など十七名。講師には日本のアイスクライミングの第一人者である溝淵三郎氏や青年部の棚橋靖会員ら五名がつとめた。



八ヶ岳で研修に励む参加者

例年がない積雪量の八ヶ岳であったが、天気にも恵まれ、支点の設置、トップロープでのクライミング、リードの基本練習、最新用具の紹介など、アイスクライミングの基本全般にわたり、わかりやすく講習された。四日夜には、テント宿泊者も含めて赤岳鉱泉小屋内で懇親会が催され、講師へのさまざまな質問なども飛び交った。(松原尚之)

海外連絡委員会

英国山岳会の趣旨に賛同

英国山岳会より大塚会長宛に依頼があった。主旨は、エベレスト登頂を目指して行方不明になったマロリ

ーの相棒だったアーヴィンの遺族の依頼を受けた英国山岳会がコメントを発表していることに對しての賛同の依頼である。

一昨年、マロリーの遺体が発見されたとき、遺体写真などが不用意に報道、出版されたが、アーヴィンの遺族から、今後発見物があつたときアーヴィン関係者の了解を得て対応すること、を公的に要求するものであつた。

日本山岳会としても英国山岳会的主旨に賛同する趣意の回答を行った。

(増山 茂)

インターネット小委員会

日本山岳会のホームページリニューアル

山岳会のホームページを二月よりリニューアルしました。今回は一般向けのページに加え、会員専用のページを設け、各委員会、支部情報などを掲載して、より会員の方々の情報連絡の向上をはかりました。また、会員の皆さんご自身で意見や情報を投稿できる掲示板を新たに設けました。

会員専用ページの閲覧、ログインに必要なパスワードをホームページ上のガイドにより入力してください。ホームページに掲載する記事を各

委員会、支部、同好会より広く募集します。投稿要領は左記のとおりです。

掲載について質問や相談はインターネット小委員会に設置の各窓口担当にお願ひします。

●ホームページ用記事の投稿方法について

一、記事の投稿依頼

各支部、各委員会は担当の窓口担当者へ記事掲載依頼をする。

二、記事の作成
原稿は左記のいずれかのファイルで作成する。

TEXT File、Word File、HTML形式
写真などの画像ファイルは100KB／ファイルを目処とする。

三、記事の投稿手段
通常、支部・委員会は原稿を作成後、インターネット小委員会の窓口担当者にmailする。

フロッピーファイルで提出する事も可能。

四、記事内容の責任
委員会の記事は担当理事、支部の記事は支部長が承認したものである。

同好会のページは、同好会代表が承認したものである。

窓口担当者は記事の内容の加工はしないが、HP上で公開する記事の

書式上の修正は窓口担当者が実施する。

五、記事の掲載時期と期間

窓口担当者が記事を受領後、二週間以内にHPに掲載するように努力する。

記事掲載後、一年を経た記事は随時ホームページより削除する。

削除は窓口担当者が実施する。

●窓口担当者一覧

jac-hpdp1@jac.or.jp (清水)

支部：北海道、青森、岩手、秋田、山形

委員会：フィルムビデオ、資料、高所登山、青年部

支部：宮城、福島、越後、信濃、山梨

委員会：医療、海外連絡、集会

支部：静岡、東海、岐阜、富山、石川

委員会：総務、財務、会報編集、山岳編集

支部：福井、京都、関西、山陰、広島

委員会：山研、科学、学生部

支部：福岡、北九州、東九州、熊本、宮崎

委員会：指導、自然保護

支部：山研、科学、学生部

支部：福岡、北九州、東九州、熊本、宮崎

委員会：指導、自然保護

支部：山研、科学、学生部

支部：福岡、北九州、東九州、熊本、宮崎

委員会：指導、自然保護

支部：山研、科学、学生部

支部：福岡、北九州、東九州、熊本、宮崎

委員会：指導、自然保護

支部：山研、科学、学生部

支部：福岡、北九州、東九州、熊本、宮崎

委員会：指導、自然保護

支部：山研、科学、学生部

すべての同好会

なお、次の委員会はそれぞれ専任でお任せしています

jac-toshio@jac.or.jp (狩野)

図書委員会

jac-rescue@jac.or.jp (松原)

遭難対策委員会 (多田真弘)

フィルムビデオ委員会

寄贈作品を紹介します

昨年十二月より本年一月までに以下の作品をご寄贈いただきました。

東北地区海外登山研究会

・至上の頂(八八四八メートル)

「チョモランマ」 三三分

日本勤労者山岳連盟 創立四十周年記念

・世界の山岳遭難防止に知力を尽しつゝ 七七分

(株)文藝春秋社(映像企画部)

・二十世紀の冒険家「メスナー自伝―限界への情熱」 六六分

・稜線の博物誌「穂高」 六〇分

田中亮三氏

・Lost on Everest South For Mallory and Irvine! (BBC II制作・英語版) 四五分

小倉童子氏(撮影・林田重男)

・「アフリカ横断一万キロ 早大赤道

昭和三十三年アフリカ遠征隊」

(撮影・森 宏子)



例会の翌朝、山行前の記念撮影

丹水会

第三十九回例会・丹沢表尾根山行と二十周年記念祝賀会

●第三十九回例会

丹水会の二十周年を記念する第三十九回例会は、十五周年記念時の会場と同じ神奈川県秦野市の丹沢登山口にある「大倉山の家」で、二〇〇〇年十一月二十五日に開催されました。

・「砂漠のバラ・バルカンのバラ―東欧。サハラ」 九〇分

・「ピンククレディ 羊の島を行く」 五〇分

・「女四人南米大陸冒険旅行」七〇分

た。日程が他の山岳関係の行事と重なったため、参加者は三十八名といつてもより少ない目でした。

交流会前の講義は、若い頃に丹沢主峰の蛭ヶ岳の小屋番もした神奈川新聞社元運動部長の岸順之氏に、若い頃の山の話や現役新聞記者の目から見た現在の丹沢や山小屋、登山者について話していただきました。

翌二十六日は朝から抜けるような青空が広がり、記念山行にふさわしい日和となりました。全員で記念写真撮影した後、宿からピクニックセンター前の吊り橋を渡って三ノ塔へ登り、一時間ほどの尾根歩きの後、書策新道を下る脚のそろったグループと、林道を一時間ほど歩いた後に小丸尾根へ登るルートを往復するグループに分かれて出発しました。

三ノ塔グループは所用のため途中で引き返した一名を除き、七名が十一時過ぎに表尾根に到着しました。予定通りの快適な尾根歩きを楽しんでから、十六時前に大倉のバス停に戻りました。

小丸グループでは、途中で引き返す予定の人がうまそうに飲んだビールの誘惑に勝てずに下山までお付き合いした人も出ましたが、最終は十三時に小丸到着、先着の全員に拍手とビール、ワインで迎えられました。両グループは夕方に大倉で再会、

記念祝賀会での再会を約して三十九回例会を終えました。

●二十周年記念祝賀会

丹水会創立二十周年記念祝賀会は二〇〇一年二月三日に神奈川県秦野市にある「グランドホテル神奈川秦野」で行われました。来賓に大塚博美会長、二宮忠夫秦野市長、記念講演の講師に元栄光学園副校長で「天狗さん」の愛称を持つハンス・シュトルテさんを迎え、八十六名が参加しました。

五十年前に丹沢の沢登りをしてい たという実績の持ち主、シュトルテさんの講演では、お話だけでなく、学園で創作したヨードルも織り込ん

だ丹沢歌謡を披露され、参加者は美声に聞き入りました。

節分の日とあつて式典の部は記念山行参加最高齢のKさんによる豆まきで終了しました。

四十八瀬川の沢登りが昭和十五年ですから私の山歴は長くない、とおつしやるSさんの乾杯の音頭で始まった歓談の部では、若い頃から丹沢を歩き、数多くの写真を撮り続けてきた奥野幸道さんによるスライド上映が行われました。うつそうとした木々に覆われた山稜など、現在の姿からは想像できない昔の丹沢の写真を見ることができました。

(國見ゆみ子)

新ハイキング選書

【第4巻】改定第2版 一等三角点のすべて

多摩雪雄 編 B6判・350頁・定価1995円(税込)
都道府県別に一等三角点を地図上に明示。一等三角点の詳細な解説、一等三角点研究の決定版。

【第9巻】第3刷 一等三角点の名山100

B6判・336頁・定価1632円(税込)
100山すべてコース図と写真入りで実用性が高い。

【第18巻】改定第2版 一等三角点の名山と秘境

A5判・340頁・定価1837円(税込)
全国一等三角点の地方別の配置図と全国の一等三角点の総覧が付いている。一等の山100座を紹介。地図が大きく見易い。

【第20巻】一等三角点の山々

A5判・310頁・定価1680円(税込)
一等三角点の山シリーズ。280山の総索引と高度順一等三角点100座が付いている。80座を紹介。

第9巻、第18巻、第20巻のガイドの山は重複しません。

新ハイキングの見本誌はハガキで申し込めば無料で送付します。

新ハイキング社 〒114-0023 東京都北区滝野川7-6-13
電話・FAX 03(3915)8110

東西南北



イラスト・宇都木慎一

ミニヤコンカ登攀史

山本健一郎

「山」の一月号を読んでいておやと思った。図書紹介の『生と死のミニヤ・コンガ』で札幌山岳会の一八九七年の登頂を第三登としているが、中国隊を入れれば第六登のはずである。ある山に関する本の紹介を引き受けたなら、その山の登攀史くらいは頭に入れてお書きいただきたいものである。

ご承知のようにこの山は一九三二年(昭和七)にアメリカ隊によって登られた。当時としては、前年(一九三一年)スマイス隊が登ったカメット(七七五メートル)に次ぐ人類が登った第二の高峰(七五五六メートル)の登頂記録であった。六月十六日に上海を出発して、登頂したのが十月二十八日と知るだけで、い

かに困難な登攀であったか察しがつくだろう。

初登頂より二十五年を経て、一九五七年に中国隊が登頂したが、頂上にアメリカ隊の痕跡が何も認められなかった。初登頂は中国隊のものであるとの報告を発表、世界の登山界を論争の渦に巻き込んだ。

しかしアメリカ隊の報告書には頂上で撮影されたパノラマ写真があり、登頂については疑いの余地がなく、かえって中国隊の報告に疑問が多く指摘された。まず中国隊の写真は北西稜(六二五〇メートル)のハンブ(こぶ)より上で写されたものが一枚もないこと。次に頂上にケルンを積み、登頂の記録を書いた紙片を缶に入れてその下に残し、記念に頂上の岩をピッケルで砕いて持ち帰ったとあるが、頂上は雪に覆われケルンを積むのは不可能であることがあげられる。

結局一九五八年のアルパインジャーナルには「いまや疑いは中国隊に向けられた。アメリカ隊は岩が出ているのは頂上から三〇〇メートル(高差)も下であると報告しているが、中国隊は金属の容器を石のケルンの下に埋めた」と報告しているからである」との記事が見られるが、中国隊は何の反論もせず、一九五九年に出された報告では「缶を雪の中に埋めた」と書き改めてしまった。

私も興味を持ち、アルパインジャーナルの六十三巻の中国隊の記録を読んだが、これは実に面白かった。登頂日のところは「午前三時に出発した」とあり、次の行は「午後一時半に頂上に着いた」となっていて、あらもう着いてしまったのとあつけないとられた。全体で二一ページもあるのに最終キャンプから頂上までの記述が一行もない報告には初めてお目にかかった。

次の頂上からの眺めの描写も面白い。ちょうどこのあたりを訳していたときだったので気がついたが、アメリカ隊の記録の丸写しの文章ではないか。興味を持たれた方は、小生が訳したアメリカ隊の記録『ミニヤコンカ初登頂』の訳者あとがきに双方の原文を対比してあるのでご覧いただきたい。

この後私の知る限りでは一九八二

年五月のスイス隊、三名登頂、下山中一名死亡。同年十月アメリカ隊二名登頂。一九八四年十月ドイツ隊の記録を第四登として紹介している。どうやらアルパイン・クラブでは中国隊の登頂を認めていないようだ。したがって、札幌山岳会の記録は第三登ではなく、第五もしくは第六登になるものの、決して札幌山岳会隊の登頂の価値を減じるものではない。エヴェレストの登頂者が千人を超えるというのにこの山の登頂者はまだ中国隊の六人を入れてもわずか十八人、横山英雄・長原孝友両氏の登頂は日本の登山史に残る快挙である。

山岳事典二つ

大森久雄

ものごとを理解する基本は、対象について正確な知識をもつことから始まるが、その知識を得るのに最適なものが本であり、とりわけ事典である。山も例外ではない。

昨年夏、シャモニやツェルマットの書店でよく目についた一つが「Dictionnaire de la Montagne」。著者はシルヴァン・ジュウティとユベール・オディエ(Sylvain Jouy & Hubert Odier)。その名の通りの山岳事典で、天地二三八ミリ、左右一

六〇ミリ、厚さ五センチ、七二〇ページという堂々としたもの。古今東西の山、人物、用具、技術などが網羅され、写真もヒマラヤ、アンデス、アルプスの迫力あるものから、歴史的な記録まで豊富（ほとんどがカラー）。最も面白いのは人物紹介で、アルプス開拓期のパイオニアはもちろん、ガイド、シエルパなどの裏方から現代のスーパーアルピニズムの男女トップクラスまで、独立項目で多数紹介されていて、登山の流れと人物の知識を得るのには最適。

「日本」という項では、日本アルプスや登山の発展が志賀重昂、ウェストンなどの名前を入れて簡潔に書かれ、「富士」「山伏」という項目まであって、日本人と山との結びつきが解説されている。独立項目で紹介されている人物は、横有恒、加藤保男、田部井淳子、山田昇、植村直己など。いずれも内容は正確で、従来ともすればトンチンカンな記述があったあちら製の本とは違っている。

写真では中野融のものが多数使用されているほか、「山岳写真」という項目の中で、アンセル・アダムスに触れた後、その影響を受けたのは日本の写真家だとして、水越武、白川義員、白旗史朗の名があげられている。山岳書出版で知られるフランス・アルトール社、一九九九年の発行。

言葉の点で諦めてしまう人には、Wait Unsworth「ENCYCLOPAEDIA OF MOUNTAINEERING」がある。こ

ちらは初版が一九七五年だからご存知の方も多かったろうが（先頃、坂下直枝氏が田口二郎氏追悼のなかでこの本に触れていた）「NEW ENLARGED AND UPDATED EDITION」というのがペーパーバック版で出ている。

Hodder & Stoughton刊。前述のフランス山岳事典がヴィジュアルな要素が強いのに対して、こちらは、細かな活字びっしりの三七〇ページ、両雄あい譲らずといったところ。Climbing in Japanという独立項目があるほかTabai Junko/Sakashita Naoko/Uemura Naomi/Yamada Noboruなどが登場。

両書とも、かの地の人たちの登山文化の厚さと広さを知らされてうらやましくなると同時に、日本は負けているなど悔しくなる。

なお、少なくとも前記フランス版のほうは、インターネットのアマゾンで検索・注文できる。

リーダー研修会の思い出

工藤光隆

「上級生が少ないときの新人部員は強くなる」。M講師のこの言葉に励ま

されて、私はその後の合宿を頑張ってきました。

この言葉を聞いたのは、大学山岳部二年目の十一月の末、一九六八年第一回「大学山岳部リーダー冬山研修会」の時でした。Mさんはわれわれの班の実技の講師でした。私は研修所で渡されたテキストに載っている講師の名前を見て、感動しました。われわれの山岳部もヒマラヤ登山を目標にしていました。ヒマラヤ遠征実現のために調べている文献や資料の中に出てくる名前が並んでいたかでした。あのマナスル初登頂のときの隊員をはじめ、ヒマラヤ遠征の経験を持つ大学山岳部の先輩、そして日本人として初めてアイガー北壁の登攀に成功したT氏の名前もありました。

研修所での講義の後は実技講習です。雷鳥平まで入り、テントの設置をしました。私が最も嬉しかったのはテントのなかでMさんの話を聞いたことでした。「あのローツェ・シャルのMさんだ、アンデスからヒマラヤへ」（濱野吉生著、白水社）の本で名前を見るだけだと思っていた人が、今、目の前にいて直接話が聞ける。夢のような時間でした。最後の夜、私は思い切ったずねました。「私は弘前大学山岳部の二年部員です。今年の冬山合宿に参加できる上

級生は一人だけですが、日高山脈で冬山合宿をやろうと思っています。

新人部員が七人います。日高で国境稜線を歩きたいのですが。このときの答が「上級生が少ないときの新人部員は強くなるよ」という言葉でした。そしてペテガリ岳の早稲田尾根の話になり、それを成功させたメンバーで、あの「剣の歌」のもとになった赤谷尾根からの剣岳アタックが実行されたことを知りました。

この年の冬山合宿は成功し、翌年の冬山合宿は、ペテガリ岳からピバイロ岳までの縦走を成功させることができました。この合宿の成功でヒマラヤが近づいたように感じました。

根深 誠さんと行く
ダージリン・ヒマラヤ展望トレッキングと
シェルパ史探訪10日間

ヒマラヤの旅と登山を続け、多くの著書がある、根深誠氏同行。ヒマラヤ展望トレッキングとダージリンやカトマンズなどのシェルパゆかりの地を訪れます。■発着地：東京
●4/26発 ¥360,000

ロンボク島・リンジャンニ山と
バリ島・アグン山登山
9日間

頂上から雄大な火口湖と海が望めるリンジャンニ山/バリ島の最高峰アグン山、南海に浮かぶふたつの名峰に登ります。
■発着地：東京・大阪・名古屋・福岡
●4/12●4/26●5/11発
¥268,000~¥318,000



国土交通大臣登録一般旅行業490号/日本旅行業協会正会員
アルパイン ツア サービス 株式会社

〒105-0003 港区西新橋1-12-1 (西新橋1森ビル) TEL 03-3503-1911
大阪 ☎06(6444) 3033 名古屋 ☎052(581) 3211 福岡 ☎092(715) 1557

三年後、アフガニスタンの山（コー・イ・バンダカー、六八四三メートル）に登ることができました。そしてカラコルムでテラムカンリⅢ（七三八二メートル）の初登頂に成功したのは、Mさんにお会いしてから十一年後のことでした。いまでも十一月末になると、登山研修会のテントのなかでの話を思い出します。

（弘前大学山の会）

短歌

辺境の山旅

加賀要子

雲の湧く山の花原果てしなく日隆への
径は白く続けり

巴朗山はラマ僧たちの礼拝所遠く
来し今日の命を思う

青い芥子の日に透く原を馬馳せて行
きたる人も遥かとなりぬ

高原の花咲きつづく果てにして四姑
娘山の雪山鋭し

積石塚の影に古りし梵字の祈願旗拾
えば草の匂いたちたり

雲も吾も越えてゆくなり巴朗山峠に
五色の「風の馬」のはためけるととき

図書受入報告 (2001年1月)

著者	書名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈／購入別
日本山岳会越後支部(編)	越後山岳(第10号)	402pp/21cm	日本山岳会越後支部	2000	発行者寄贈
沖允人(編)	上海チベット一万キロ:国際クリンネルター 學術調査隊帰国報告書	141pp/30cm	足利工業大学	2000	編者寄贈
上條武	上高地(2):常念烏帽子縦走記	444pp/22cm	独木(まるき)書房	2000	著者寄贈
大町山岳博物館(編)	大町山岳博物館:総合案内	71pp/26cm	大町山岳博物館	1994	発行者寄贈
JAC 学生部指導委員会(編)	全国大学山岳部監督会議1999(平成11)年度	59pp/21cm	JAC 学生部指導委員会	2000	発行者寄贈
金山広美	お父さんほら山が見えるよ:視力を失ってから始めた僕の山歩き	254pp/20cm	山と溪谷社	2001	出版社寄贈
ACC 登山同好会紫蘭会(編)	紫蘭の四季(第82号):25周年記念号・秋冬号	90pp/26cm	ACC 登山同好会紫蘭会	2001	発行者寄贈
横浜山岳会(編)	写真展「丹沢山塊」記録写真集:横浜山岳会創立70周年記念	20pp/30cm	横浜山岳会	2000	奥野幸道氏寄贈
横浜山岳会(編)	写真展「丹沢山塊」出品目録:横浜山岳会創立70周年記念	6pp/30cm	横浜山岳会	2000	奥野幸道氏寄贈
B.McDonald, J.Amatt(eds.)	Voices from the Summit (The Banff Mountain Film Festival)	256pp/30cm	Adventure Press	2000	田部井淳子氏寄贈
New Zealand Alpine Club	New Zealand Alpine Journal 2000 (Vol.52)	136pp/24cm	NZAC	2000	発行者寄贈
Ed Douglas	The Alpine Journal 2000 (Vol.105, No.349)	373pp/23cm	The Alpine Club	2000	発行者寄贈
Frank Kingdon-Ward	Pilgrimage for Plants	191pp/22cm	George G.Harrap	1950	購入
Frank Kingdon-Ward	Plant Hunting on the Edge of the World	383pp/22cm	Victor Gollancz	1930	購入
Frank Kingdon-Ward	Plant Hunter in Manipur	254pp/21cm	Jonathan Cape	1952	購入
Frank Kingdon-Ward	A River of Mystery	20pp/25cm			購入

ビデオテープ保管リスト (フィルム・ビデオ委員会)

山岳会が所蔵しているビデオテープをご紹介します。ヒマラヤ登山の記録や名山シリーズ、登山技術など種類は多岐にわたります。ルームに備え付けのノートに所定の事項を記入してご覧ください。持ち出しは原則として禁止しています。

ビデオテープ 《無記入はVHS》《β》

1	北アルプス〈空撮〉		
2	穂高60年史		56分
3	山 男		54分
4	人間の記録、アルピニズムの先駆者		60分
5	チョモランマ北壁隊 (JAC)	F-V	27分
6	西藏世界の屋根を行く・ヒマラヤ千古の道		50分
7	スイス、ベルンのアルペン・ミュージアム		9分
8	カンチェンジュンガ縦走		44分
9	カンチェンジュンガ 水曜ロードショー		110分
10	日本山岳会自然保護委員会《β》		
11	日本山岳会創立80周年記念番組		45分
12	第Ⅱ回宮崎ウェストン祭		40分
13	マナスルに立つ (1975.10)	F-V	100分
14	ヒマラヤ展 (展示物の紹介)		33分
15	県境を行く (日本の屋根アルプスを越えて)		54分
16	ズームイン朝 “あどべんチャーレディ”		
17	早池峰山		17分
18	白 馬 (今井通子の名山トレッキングシリーズ)		53分
19	穂 高 (今井通子の名山トレッキングシリーズ)		54分
20	燕から槍へ (今井通子の名山トレッキングシリーズ)		54分
21	アフリカ横断1万キロ (早大赤道アフリカ遠征隊)		90分
22	エピック オブ エベレスト (1924)	F-V	17分
23	ナンダコット征服 (1936)	F-V	28分
24	黒部の秋 (1929)	F-V	30分
25	スキーツアー (1929~30)	F-V	12分
26	冬のロータン峠 パンジャブ・ヒマラヤ (1930)	F-V	20分
27	1962ビッグホワイトピーク第2次・3次隊の記録 (全岳連隊)	F-V	
28	マナスルに立つ 1987年2月 毎日新聞社	F-V	
29	ネパールヒマラヤ「ヤルカン登頂-京大山岳会」		
30	オーロラと風車 極地風力発電にかけた男たちの記録		
31	ディオティバ 1960年登山		
32	91-丹沢清掃登山-三の塔〜烏尾尾根		
33	雪崩を越えて-横浜山岳協会チョゴリ峰登頂記録		
34	①エベレスト (NHK) ②ドキュメンタリー特集 日本山岳会エベレスト		
35	立正大・新疆大合同シルクロード踏査隊記録		
36	交響詩「立山」		
37	第10回登山医学シンポジウム		
38	新春スペシャル 甦る中央アジア 極寒のパミールに幻の民を求めて		
39	ヒマラヤを歩いたにほん猿-ムギとQ太と登山隊		
40	槍ヶ岳開山 (播隆)		
41	槍ヶ岳開山基 (播隆)		
42	魅惑の槍・穂高岳		
43	西穂高岳歳時記 (這松のかおりのする男の山)		
44	燕岳の自然〜美しき時の流れに		
45	山・ヒマラヤに魅せられて		
46	ヘリコプターによる山岳遭難救助活動		
47	NNN'91特集 開発と環境		
48	やかまし村の子供たち-86スエーデン		
49	21世紀へのウェーブ 生涯スポーツ		
50	MOUNTAINURING IN THE USSR ソビエトの登山		
51	車窓の山旅・中央線から見える山		
52	美しき季節の流れ・穂高、涸沢		
53	高山へのステップ PART1「岩登り技術」		
54	高山へのステップ PART2「冬季登攀技術」		
55	高山へのステップ PART3「山岳スキー技術」		

56	ディオティバ隊 (昭和35年)	
57	ディオティバ隊 出発-登頂-撤収まで	
58	ディオティバ隊 出発-登山開始まで	
59	ナムチャバルワ 1991年総集編	
60	ナムチャバルワ (日中登山隊の60日)、美の回廊を行く (ネパール・カトマンズ)	
61	「人工呼吸」法	
62	南アルプス賛歌 日本最大山麓の四季	
63	「私と尾瀬」	24分
64	HNKスペシャル 再挑戦ナムチャバルワ	110分
65	NBSスペシャル ウォルター・ウェストン 槍ヶ岳への道	
66	早稲田の山	85分
67	高山植物	45分
68	北アルプスの野鳥	40分
69	尾 瀬	45分
70	ブナ原生林・朝日連峰	30分
71	春に咲く花	30分
72	南の島の原生林 (屋久島、三宅島、西表島)	30分
73	大雪山の花	30分
74	スイス・アルプス	57分
75	ふしぎな花の咲くブータン	26分
76	アイガー北壁	F-V 52分
77	真川より黒部川、剣沢入り	F-V 32分
78	穂高岳賛歌	F-V 32分
79	JAC山岳研究所 (上高地)	13分
80	フォトクラブ写真展の記録	
81	中国隊チョモランマ (1973)	
82	第一回 日本山岳耐久レース	
83	1989年年次晩餐会	
84	長谷川恒男	
85	NNNドキュメント'85 尾瀬は病んでいる	
86	NNNドキュメント'86 尾瀬汚れちゃった悲しみ	
87	NNNドキュメント'93 どうなる日本の山-赤字林野行政の行く末は-	
88	Mt. Everest 8846.10m	
89	雪の八ヶ岳を歩く (冬山技術を学びながら)	45分
90	ナンダデヴィ縦走 (日本山岳会) 1976	F-V 40分
91	日本百名山: 利尻岳、羅臼岳、斜里岳、阿寒岳、大雪山	55分
92	日本百名山: トムラウシ、十勝岳、幌尻岳、後方羊蹄山、岩木山	55分
93	日本百名山: 八甲田山、八幡平、岩手山、早池峰、鳥海山	55分
94	日本百名山: 月山、朝日岳、蔵王山、飯豊山、吾妻山	55分
95	日本百名山: 安達太良山、磐梯山、会津駒ヶ岳、那須岳、魚沼駒ヶ岳	55分
96	日本百名山: 平ヶ岳、巻機山、燧岳、至仏山、谷川岳	55分
97	日本百名山: 雨飾山、苗場山、妙高山、火打山、高妻山	55分
98	日本百名山: 男体山、奥白根山、皇海山、武尊山、赤城山	55分
99	日本百名山: 草津白根山、四阿山、浅間山、筑波山、白馬岳	55分
100	日本百名山: 五竜岳、鹿島槍岳、剣岳、立山、薬師岳	55分
101	日本百名山: 黒部五郎岳、黒岳、鷲羽岳、槍ヶ岳、穂高岳	55分
102	日本百名山: 常念岳、笠ヶ岳、焼岳、乗鞍岳、御岳	55分
103	日本百名山: 美ヶ原、霧ヶ峰、蓼科山、八ヶ岳、両神山	55分
104	日本百名山: 雲取山、甲武信岳、金峰山、瑞牆山、大菩薩峠	55分
105	日本百名山: 丹沢山、富士山、天城山、木曾駒ヶ岳、空木岳	55分
106	日本百名山: 恵那山、甲斐駒ヶ岳、仙丈岳、鳳凰山、北岳	55分
107	日本百名山: 間ノ岳、塩見岳、悪沢岳、赤石岳、聖岳	55分
108	日本百名山: 光岳、白山、荒島岳、伊吹山、大台ヶ原	55分
109	日本百名山: 大峰山、大山、剣山、石鎚山、久重山	55分
110	日本百名山: 祖母山、阿蘇山、霧島山、開聞岳、宮之浦岳	55分
111	富士山直滑降	30分
112	ミルフォードサウンドの山道 ニューゼーランド	26分
113	アンデスの氷壁に挑む (早大ペルーアンデス遠征 1962年)	42分
114	山を讀え、山を極める-日本山岳会この10年の歩み	20分
115	マカルー東稜未知への挑戦-日本山岳会マカルー登山隊 1995	39分
116	デナリ国立公園の自然	48分
117	エベレストへの道-日本山岳会エベレスト登山隊1970	F-V 118分
118	花の百名山: 礼文岳、利尻山、暑寒別岳、硫黄山、大雪山	55分
119	花の百名山: 富良野岳、夕張岳、アポイ岳、八甲田山、八幡平	55分

120	花の百名山：和賀岳、焼石岳、栗駒山、早池峰山、五葉山	55分
121	花の百名山：南蔵王、田代岳、森吉山、秋田駒ガ岳、鳥海山	55分
122	花の百名山：神室山、月山、朝日連峰、飯豊連峰、安達太良山	55分
123	花の百名山：会津駒ガ岳、高鈴山、石裂山、三轟山、尾瀬	55分
124	花の百名山：蓬峠、平標山、伊豆ガ岳、両神山、高水山	55分
125	花の百名山：川苔山、雲取山、高尾山、天上山、大楠山	55分
126	花の百名山：大室山、高松山、神山、幕山、ドンデン山	55分
127	花の百名山：苗場山、火打山、大日連峰、五色ガ原、黒部五郎岳	55分
128	花の百名山：白山、甲武信ガ岳、百蔵山、二十六夜山、三ツ峠山	55分
129	花の百名山：櫛形山、北岳、戸隠山、志賀高原、白馬岳	55分
130	花の百名山：針ノ木岳、双六岳、槍ガ岳、涸沢岳、燕岳	55分
131	花の百名山：蝶ガ岳、根子岳、高峰山、黒斑山、鉢伏山	55分
132	花の百名山：霧ガ峰、入笠山、宝剣岳、三ノ沢岳、空木岳	55分
133	花の百名山：塩見岳、荒川岳、天城山、石巻山、藤原岳	55分
134	花の百名山：御在所岳、大台ガ原山、伊吹山、霊仙岳、大江山	55分
135	花の百名山：吉野山、稲村ガ岳、八経ガ岳、大山、三瓶山	55分
136	花の百名山：蒜山、三嶺、東赤石山、石鎚山、多良岳	55分
137	花の百名山：雲仙岳、大船山、祖母山、韓国岳、宮之浦岳	55分
138	星と語る男たち～富士山頂551日～	70分
139	ヒマラヤ(エベレスト山系)トレッキング(雪崩遭難、事後の記録)	60分
140	検証 ヒマラヤ大量遭難事故 NHK「クローズアップ現代」	30分
141	'93JACキルギスタン踏査報告	
142	「K2 FREE」イタリア隊1963年	
143	奥国式スキー術ーリリエンフェルトスキー術ー	
144	KKB おーい かごしま'96	
145	「富士山を測る」ー1995ー	
146	大山崎山荘(日本人で初めてヨーロッパアルプスに登った加賀正太郎の別荘)	
147	シルバータートル(ダウラギリⅠ) NHK「プライム11」	
148	シルバータートル(ダウラギリⅡ) NHK「プライム11」	
149	槍ヶ岳を初めて登った男「山岳修行僧播隆上人の生涯」	60分
150	昭和五年 上高地、槍ヶ岳、白骨温泉	F-V 11分
151	日本花の旅 春に咲く花	30分
152	日本花の旅 春爛漫・桜の里	30分
153	日本花の旅 大雪山の花	30分
154	日本花の旅 海辺に咲く花	30分
155	日本花の旅 高原の花	30分
156	日本花の旅 湿原に咲く花	30分
157	日本花の旅 高山の花	30分
158	日本花の旅 秋に咲く花	30分
159	四季 八甲田	30分
160	四季 尾瀬	35分
161	四季 上高地	30分
162	みちのくの名峰 鳥海・月山	30分
163	神々の相貌(山溪社創立65周年記念作品)	45分
164	NHK世界の秘境Ⅱーチョモランマ遥かー	60分
165	Mt. Chomolangma (Nihon University Mt. Everest Expedition 1995)	
166	美しき大地と共に(上高地の懐に生きる)ーテレビ信州	80分
167	EIGER Mittellege Ridge 1994 (NTSC)	45分
	(保存版=167-2 EIGER Mittellege Ridge 1994 (NTSC))	45分
168	WHEN SNOW WAS INVENTED スキー・パイオニア(168-2 保存版)	15分
169	SKI FANTASIE スキー・ファンタジー(169-2 保存版)	24分
170	チョモランマがそこにある! 日本、中国、ネパール三国友好登山感動の全記録!	
171	チョモランマがそこにある! (登頂の朝頂上をめざして)	
	1988. 5. 5 10:30~11:25 12:00~13:00	
172	チョモランマがそこにある! (パノラマ中継) 1988.5.5 13:00~18:00	
173	チョモランマがそこにある! (やった! 8848mの握手) 1988. 5. 5 19:00~21:00放送	
174	岩崎元郎の中老年のための登山学 ①登山用具と山歩きの基本	50分
175	岩崎元郎の中老年のための登山学 ②山の気象と地図の読み方	50分
176	岩崎元郎の中老年のための登山学 ③2000m級の山歩きとトラブル防止	50分
177	岩崎元郎の中老年のための登山学 ④山小屋とテント泊登山	50分
178	スイス・アルプス花と風の小径シリーズ(マッターホルンを歩く)	40分
179	スイス・アルプス花と風の小径シリーズ(ユングフラウを歩く)	40分
180	スイス・アルプス花と風の小径シリーズ(ローヌ河花の道を歩く)	40分
181	HELI FOX FOX スイス山岳救助隊(181-2 保存版)	F-V 41分

182	屋久島 宮之浦岳他 1994年11月		
183	イヌワシの棲む山 1997.7.6		
184	第二十回記念 若葉会山行 (金城山と浅草岳) 日本山岳会集會委員会		50分
185	スイス・アルプス花と風の小径シリーズ (ハイジのふるさとを歩く)		40分
186	スイス・アルプス花と風の小径シリーズ (山の女王リギ山を歩く)		40分
187	スイス・アルプス花と風の小径シリーズ (アイガーの麓を歩く)		40分
188	新疆の太陽と風と山 (芝浦工大創立70周年記念事業)		22分
189	The Unknown Mountain		25分
190	岩登り技術	F-V	26分
191	氷雪技術	F-V	26分
192	山岳スキー技術	F-V	26分
193	光と風の記憶 (綱・立山連峰)		45分
194	ふれあい見つけ旅 (高山・上高地句の鮎づくしと日本登山発祥秘話)		
195	花の頂を求めて (坂倉登喜子米寿記念)		
196	映画キナバル山と戦時中の写真集-浅野孝一		60分
197	天と地の間に -ガストン・レビュファ-		76分
198	星と嵐 -ガストン・レビュファ-		94分
199	星に伸ばされたザイル -ガストン・レビュファ-		81分
200	エベレスト征服 (長編記録映画 1953年)		88分
201	白銀は招くよ -トニー・ザイラー-		86分
202	丹沢で出会った花		23分
203	丹沢の四季		25分
204	こんにちは神奈川 No.860 かながわの屋根-丹沢・初秋		14分
205	こんにちは神奈川 No.873 かながわの屋根-西丹沢・早春		14分
206	長野高校百周年記念「山男の詩」		50分
207	こころの名山 日本霊山紀行①: 利尻山、岩木山、恐山、鳥海山、早池峰山		60分
208	こころの名山 日本霊山紀行②: 宝珠山、月山、蔵王山、吾妻山、磐梯山		60分
209	こころの名山 日本霊山紀行③: 八海山、帝釈山、白根山、男体山、筑波山		60分
210	こころの名山 日本霊山紀行④: 榛名山、妙義山、両神山、御岳山、大山		60分
211	こころの名山 日本霊山紀行⑤: 富士山、鳳凰山、七面山、秋葉山、宝来寺山		60分
212	こころの名山 日本霊山紀行⑥: 穂高岳、御嶽山、戸隠山、立山、白山		60分
213	こころの名山 日本霊山紀行⑦: 比叡山、伊吹山、愛宕山、大峰山、金剛山		60分
214	こころの名山 日本霊山紀行⑧: 高野山、大山、三瓶山、弥山、剣山		60分
215	こころの名山 日本霊山紀行⑨: 石鎚山、英彦山、阿蘇山、雲仙岳、久住山		60分
216	こころの名山 日本霊山紀行⑩: 由布岳、高千穂峰、開聞岳、宮之浦岳、宇良部岳		60分
217	海外トレッキングシリーズ ヨーロッパ・アルプス①: マッターホルン展望		50分
218	海外トレッキングシリーズ ヨーロッパ・アルプス②: アイガー展望		50分
219	海外トレッキングシリーズ ヨーロッパ・アルプス③: モン・ブラン展望		50分
220	海外トレッキングシリーズ ヨーロッパ・アルプス④: チロル展望		50分
221	海外トレッキングシリーズ ネパール・ヒマラヤ①: エベレスト		50分
222	海外トレッキングシリーズ ネパール・ヒマラヤ②: アンナプルナ		50分
223	海外トレッキングシリーズ ネパール・ヒマラヤ③: ランタン		50分
224	遠い山・旅する心 (同志社大学山岳部の七十年)		53分
225	孤高の峰・槍ヶ岳 (山と溪谷社)		45分
226	北アルプス・槍ヶ岳 (創映社)		
227	マナスル(8163m) マナスル登山隊1997の記録 明治大学山岳部炉辺会		
228	ビデオ登山学校①: 山の装備の選び方・使い方		40分
229	ビデオ登山学校②: 山の歩き方		40分
230	ビデオ登山学校③: 山の泊まり方		45分
231	ビデオ登山学校④: 山で遭難しないために		45分
232	ビデオ登山学校⑤: 山の天気を知る		45分
233	ビデオ登山学校⑥: 山の地図を読む		45分
234	ビデオ登山学校⑦: 沢登りを楽しむ		45分
235	ビデオ登山学校⑧: 雪山を楽しむ		50分
236	ビデオ登山学校⑨: 山を撮る		45分
237	ビデオ登山学校⑩: 花を楽しむ山登り		45分
238	至上の頂 (8848m)「チョモランマ」東北地区海外登山研究会		33分
239	「世界の山岳遭難防止に知力を尽くして」日本勤労者山岳連盟		77分
240	20世紀最高の冒険家 メスナー自伝 (限界への情熱)		66分
241	穂高 (稜線の博物誌)		60分
242	Lost on Everest South for Mallory and Irvine		
243	アフリカ横断1万キロ 早大赤道昭和33年アフリカ遠征隊		90分
244	砂漠のバラ、バルカンのバラ (東欧、サハラ)		90分
245	ピンクレディ羊の島に行く (50分) 女四人南米大陸冒険旅行		70分

会務報告

平成十三年度一月理事会

日時 一月十日 十八時三十分～二

十時五十分

場所 日本山岳会会議室

〔出席者〕 大塚会長、小倉、大森、竹内各副会長、西村、村井(龍)、森、宮崎、高原、村井(葵)、宮下、河西、松原、高遠、勝山、坂井、鰐坂、増山、坂本各理事、中村、神崎各監事、中川、平山、吉永、田邊各常任評議員
◎年頭にあたり大塚会長より「理事会はJACの舵取り役。また学生部所属の大学で山岳遭難が続いている。若者の登山活動は当会の核のひとつ。アクティブな行動を掲げている委員会対策を講じてもらいたい」と激励の挨拶があった。

〔審議事項〕

一、戦前の「山岳」復刻(西村)

(株)アテネ書房より戦前の「山岳」復刻の許可依頼があり、①出版社が創立百周年を記念してはおかしいので、百周年をお祝いしてが妥当。②監修の日本山岳会は不要では。③版權使用料は第一期五百部まで、定価(十二万八千円)の三パーセントは妥当か。④原本が傷まないか―合本は

複数ある。⑤買い取りの必要はないし、復刻のメリットもある、などの意見があり前向きに検討。継続審議
二、東京農業大学ダウラギリ峰登山隊の推薦依頼(西村)

東京農大山岳部・東京農大山岳会より三月から五月実施予定の登山隊(谷川太郎隊長)への推薦。承認

三、今後の山研の進め方(森)

①ミニ水力発電実行委員会は当初の目的を果たしたので今年度末で解散。平成十三年度からは実験研究継続のため、山研委員会内の小委員会としてミニ水力発電運営委員会を設置する。当面、委員長≪小倉副会長、委員≪坂本、森で構成し、五月の役員改選を経て組織体制を確立する。

②本プロジェクトを円滑に実施するため、研究は当会と神奈川工科大学の共同研究で進めてきたが、期限は三月までの二年間であった。今後研究継続のためさらに三年間延長したい。(この研究は環境庁との了解事項として、最低五年間は実施し、遂行は大学等研究機関との共同研究が前提条件となっている) 承認

〔報告事項〕

一、資料等使用許可報告(西村)

①朝日新聞出版局より「週刊日本百名山」(第十三号)に掲載予定の、当会所蔵で大町山岳博物館展示資料(上條嘉門次の輪かんじきなど七

点)の撮影。

②NHKより「プロジェクトX挑戦者たち」で放映予定の、当会所蔵で松本市アルプス山岳館展示資料(一九七五年エヴェレスト登頂の田部井淳子さん使用の登山装備一式)の撮影。

二、委員会報告

財務委員会・村井(龍)

三、四期の会計報告。入会者数が予定より四十人程度少ない、入金収入が減になりそう。その他は順調。
会報委員会・村井(葵)

「山」一月号は二十一世紀の登山試験―江本嘉伸会員、「平成十二年度年次晩餐会報告」などを特集。
海外登山基金委員会・大森副会長

応募は次の三件。一月二十二日に委員会を開催して助成対象隊、額について検討する。

①サンルン峰(七〇九五メートル) 日本大学校門山岳会

②ガツシャブルムI、II峰(八〇六八、八〇三五メートル) 明治大学山岳部・炉辺会

③ローツェ南壁(八五一六メートル) 東海支部

アルバータ二〇〇〇・大森副会長

報告書(一二〇ページ、邦文英文とも)を年度末に発行予定。

医療委員会・増山

遭難対策委員会と合同で、一月十一日十八時三十分より、集会室にお

いてイゴール・ガモフ教授をお招きして「新世代の携帯型加圧バッグ(新ガモフバッグ)そしてガモフベッド」のタイトルで講演会を開催する。

JACホームページが装いを新たに運用を始めた。各支部、委員会、同好会に対しそれぞれに棚を設けている。記事の投稿方法などの約束事項および記事の掲載依頼の窓口となるインターネット小委員会の担当者

を別紙に記載。会報で案内する。

指導委員会・松原
遭難対策、青年部、学生部指導委員会共催で二月三日より五日まで八ヶ岳でアイスクライミング講習会を

北アルプス白馬連峰

白馬五竜スキー場直下

スキーツアー、雪上訓練、クロスカントリー、スノーシュー、によるスノートレッキングにご利用ください。

スキーはゴールデンウィークまで、スノートレッキング、スノーシューは5月中は可能です。リフト割引券あり。

和牛料理の宿
ひまわり
長野県北安曇郡白馬村神城22114-17
TEL (0261) 75-2292(代)
FAX (0261) 75-3284

開催する。
その他・高原

信濃支部新年例会に小倉副会長・坂本、山梨支部新年例会に竹内副会長が参加予定。その他日山協・都岳連の新年会に大森副会長が出席予定。

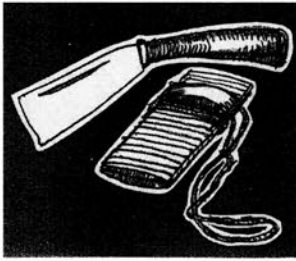
■会員異動

物故

平塚直秀 (一三〇七) 00・7・24
斎藤邦三 (二二一八三) 01・1・18
酒井俊雄 (二二五五) 01・1・31
退会

大笹秀一 (二〇八二二)
丸茂キクエ (六〇六四)
小川重蔵 (八七五〇)
池田成之 (九〇〇一)

INFORMATION



イラスト・宇都木慎一

◆山研平成十三年度開所

山研運営委員会
ミニ水力発電装置の本稼動、支部の利用増などもあって、平成十二年度の山研利用者は八百八十八名でした。

た。これは一日平均五名(開所日数百八十日)の利用ということになります。

平成十三年度は四月十五日頃より山研委員が除雪や雪囲い撤去などに上高地に通い、開所準備をスタートします。

開所 四月二十八日
会員の利用 四月二十九日(日)

利用の申込は従来どおり直接「山研」で受け付けます。なお、開所から五月六日までの利用については事務局(TEL・〇三・三二六一・四四三三)に申し込んでください。予約は四月十六日から受け付けます。

◆二〇〇一年度東北地区集会

宮城支部
東北六支部集会のご案内です。

主管 宮城支部

場所 「仙台市勤労者保養所」(集会)と「大東岳」(記念登山・二万五千分の一地形図制作並、山寺)

日程 六月二日(土)

①集合 仙台市勤労者保養所・茂庭

庄(〒九八二・〇二五一) 仙台市太白区茂庭字人來田西一

四三・三 TEL・〇二二・二四

五・五一四一 Fax・〇二二・

二四五・九九三〇

②受付 十四時三十分

③記念講演 十五時

講師・柴崎徹「大東岳と二口谷」
④東北地区支部連絡会議 十六時
⑤懇親会 十八時
六月三日(日)

記念登山 大東岳(一三六五メートル)
①出発 七時(チャーターバスとマイカーで移動)

②二口登山口発 八時(本小屋より立石沢ノ鼻こすり山頂、同ルートを下山)

参加費 一万四千元(郵便振替で振込み) 宿泊費、懇親会費、会議費、移動費、昼食におにぎりを含む

申込 四月二十日までにTEL&Fax・宮城支部事務局・千石信夫宛
TEL・〇二二・二四三・二〇七一 Fax・〇二二・二四三・二〇七二

*ご連絡いただければ案内状を送付します。

◆探索山行「奥会津に高層湿原とブナ林を訪ねる」

日時 六月十六(土)〜十七日(日)
場所 駒止湿原・志津倉山
交通 東京より貸し切りバス
*詳細は次号に掲載します。

◆自然観察山行

自然保護委員会

緑の美しい日光の竜頭の滝と戦場

ケ原周辺の散策を計画しています。公共施設をお借りして一夜をゆつくりと温泉でくつろぎ、語り合いたいと思います。ご一緒しませんか。

日程 六月二十三(土)〜二十四(日)
費用 約九千元(宿泊費、弁当、連絡費、講師謝礼など)

集合 東武日光駅 十一時三十分
申込 六月十日までに住所、氏名、年齢を明記の上、ハガキまたはFaxで川越尚子宛(〒一八五・〇〇一一) 国分寺市本多三・七・三二)

*先着二十五名まで、申込者には詳細案内を送付します。

◆94同期会・春の懇親山行

日程 三月三十一日(土)
場所 箱根・明神ヶ岳
集合 JR小田原駅南口九時十分
行程 箱根登山鉄道強羅駅より頂上往復(約五時間) 下山後温泉で懇親会(悪天時は懇親会のみ行う)

申込 不要(自由参加、同期会以外の方の参加も歓迎します)

問合せ 大森喜夫(〇三・三三三・二二二) 六・二二二(二二時以降)

◆96同期会二〇〇一年度活動予定

①桃源郷ハイキングとバーベキュー(岳友の山を旅する) 五

四月二十二日(日)勝沼ぶどう郷駅集合

↓棚横手(バーベキュー) ↓ぶどう

山旅イラスト通信 豊田時男の「ひとり画展」より



の丘温泉
申込み、問合せは永田弘太郎（会社
〇三・五二八五・七四四四）まで
②六月十六日(土)十五時より、日本山
岳会会議室
「深田久弥さんとの山旅」 山本健一
郎氏の講演
事前申込みの必要はありません。
問合せは右記永田まで
◆お花見山行 99同期会
同期に限らず、どなたでもご参加
ください。
日時 四月二十一日(土)
集合 JR高尾駅北口九時
場所 高尾山から景信山
会費 五百円(焼きそばを作ります)
連絡先 柴山信夫(〇四四・九〇〇
・三四三九、〇九〇・八三三

一・四二二二)
◆第六回山行「高鈴山と神峰山」 98同期会
日時 四月二十一日(土)
集合 常磐線日立駅改札口九時四十
五分(上野発八時の特急が便利)
行程 日立駅⇨スケート場前⇨御岩
山⇨高鈴山⇨向陽台⇨神峰山
⇨かみね公園⇨日立駅
歩程・約五時間三十分
費用 約一万円(東京起点交通費)
持物 日帰りハイキングセット
申込 四月二日までに会員番号を記
入の上ハガキで海老沼清宛
(〒三三三・〇〇二二 川口市
西川口一・二七・一四 Ⅷ〇
四八・二五五・〇一六六)
*どなたでも参加歓迎します。

ルーム日誌

30日	29日	26日	25日	24日	23日	22日	19日	18日	17日	16日	15日	12日	11日	10日	9日	1月
日本山岳志編集委員会 1月来室者 535名	会員アンケート小委員会 新	図書委員会 山岳編集委員会	同例会 土曜会	山岳学研究会 アルパインスキークラブ 98同期会 99	山の自然学研究会 アルパインスキークラブ 98同期会	自然保護委員会 学生部 フイルムビデオ委員会	海外登山基金委員会 自然保護委員会 学生部 フイルムビデオ委員会	科学委員会 学生部 アルパインスキークラブ	三水会	95同期会 アルパインスケッチクラブ	百年史委員会 集会委員会	総務委員会	青年部 フォトビデオクラブ	理事会 ジャック93会 99同期会	常務理事会 アルパインスケッチクラブ 会報編集委員会	常務理事会 アルパインスケッチクラブ 会報編集委員会

■訂正 二月(六六九)号四ページ
二段二行目の肝機能は腎機能の間違
いです。

同じく一六ページ、神子安雄氏記
述の「或る先蹤者の日記から」の岩
下茂一郎氏の記録を大正七年と注記
しましたが、「登高行」を確認したと
ころ大正六年の誤りでした。お詫び
して訂正します。

◆編集後記◆

前号で中高年会員によるカザフス
タン・テンシヤンと南米のペルー・
コルデイエラ・ブランカの登攀記を
掲載しました。会心の山登りに乾杯
トレッキングなどにも役立つ費用や
最新情報も加えてもらいました。

本号は地球生命の根源にかかわる
論文を岩坪会員に寄せていただきま
した。悠久の生命サイクルの過客に
すぎない人類は、かけがえのない森
林に保護され、生かされていること
が実感できます。
(村井 葵)

日本山岳会報 山 670号

2001年(平成13年)3月20日発行
発行所 社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビュウハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
ホームページ: <http://www.jac.or.jp>
Eメール: jac-info@jac.or.jp
発行者 大塚博美
編集人 村井 葵
印刷 株式会社 双陽社